



## ニュース

### 都市文化研究センターの活動

山野 正彦

#### COEウィークス

COE研究拠点形成事業が開始されて5年目の仕上げの年度を迎え、「COEウィークス」と銘打った、下記のような国際シンポジウム、大学院生向け授業(インターナショナル・スクール)、市民向け講座、アートフェスティバルなどを含む一連の事業を行った。これらの催しは、過去のCOE教育・研究事業の成果の上に立って、都市文化研究の一層の深化と、文化の振興を通じた都市づくりに関する提言を目標とするものである。

#### 国際シンポジウム「東アジア大都市の資本制文化と人間——外国人労働者と民族関係を焦点に——」

2006年9月1日(金)～2日(土)

大阪市立大学共通教育棟 815教室

共催：大阪市立大学大学院文学研究科重点研究「都市文化創造のための比較的研究」

#### 国際シンポジウム(1日目) 9月1日10:00～17:00

問題提起：谷富夫(大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者)

#### 第1セッション「外国人労働者と民族関係」(司会：近藤敏夫(佛教大学社会学部助教授))

高畑 幸(広島国際学院大学現代社会学部講師)  
「フィリピンコミュニティと地元住民組織の『関係』形成に向けて——名古屋市中区栄東地区の事例」

李文雄(ソウル大学名誉教授)「韓国都市における外国人労働者の社会文化適応」

#### 第2セッション「台湾都市の多文化共生」(司会：山本かほり(愛知県立大学文学部助教授))

林佳瑩(台湾国立政治大学社会学系副教授)「台湾都市の新移民に関する一分析——外国人労働者と家族の社会適応」

林顕宗(台湾国立政治大学社会学系教授)「大

台北都市圏の外国人花嫁——板橋市調査と桃園県調査」

#### 第3セッション「資本制文化の行方」(司会：西村雄郎(広島大学総合科学部助教授))

稲月 正(北九州市立大学外国語学部教授)「大阪(日本)・板橋(台湾)・仁川(韓国)における外国人労働者の受け入れについての意識——受け入れの『好ましき』とその規定要因」  
青木秀男(都市社会学研究所所長)「出稼ぎ労働者送り出し国の労働事情——フィリピンから東アジアへ」

総括討論

#### 国際セミナー(2日目) 9月2日10:00～15:40

#### 第1セッション「日韓台の国際比較——COE調査結果から」(司会：西田芳正(大阪府立大学大学院人間社会学研究科助教授))

内田龍史(大阪市立大学COE研究員)「民族関係の国際比較——大阪・仁川・板橋市民意識調査から——」  
妻木進吾(大阪市立大学COE研究員)「外国人労働者問題に関する市民意識の構造——大阪・仁川・板橋——」  
向井有理子(大阪市立大学COE研究員)「自尊心と外国人の受容——日本、台湾、韓国の比較」

#### 第2セッション「韓国と台湾の外国人労働者問題」(司会：高畑幸)

及川ひろ絵(延世大学大学院博士課程大学院学生)「移住労働者支援NGOの活動戦略と課題——大学路ラファエルクリニックを事例に」

彭 莉惠(台湾政治大学大学院社会学系博士課程大学院学生)「台湾における外国人労働者の管理と外国人労働者政策の評価」

黄 瀚諄(大仁技術学院情報管理学部講師)「経営者の視点から見る外国人労働者の雇用開発——台湾板橋市の事例研究」

蔡 毓智(台湾政治大学大学院社会学系博士課程大学院学生)「家族構造と社会意識——台湾板橋市民意識調査から」

#### インターナショナル・スクール「国際都市文化論II」

2006年9月26日(火)～28日(木)

大阪市立大学共通教育棟 821教室

詳細は後掲「インターナショナル・スクール」の項参照

#### 高瑞泉教授講演会

2006年9月29日(金) 13:30～16:00

大阪市立大学田中記念館 AB会議室

共催：大阪市立大学文学部中国学教室  
 講演：高瑞泉（華東師範大学人文学院院長）  
 「中国の近現代思想史研究の現状と課題」

### 国際シンポジウム（分科会）

2006年9月30日（土）

大阪市立大学共通教育棟

### 大阪プロジェクト「都市に対する歴史的アプローチと社会的結合」

9:30 ~ 17:00

大阪市立大学共通教育棟820教室

共催：「近世大坂研究会」・「とらっど3・西日本班」

塚田 孝（大阪市立大学大学院文学研究科教授・COE事業推進担当者）「都市に対する歴史的アプローチと社会的結合」趣旨説明

### 第1セッション「流通・金融と都市」（司会・運営：

井上徹，後藤雅知）

万 明（中国社会科学院・歴史研究所研究員）「“Congshi”（貢市）and Evolution of Ningbo（寧波）Seaport Functions in the Ming Dynasty：A Special Reference to an Account by Jing Zhi Lu（敬止録）」（明代の「貢市」と寧波の港湾機能——『敬止録』を中心とする考察）

森下 徹（山口大学教育学部助教授）「萩藩大坂蔵屋敷の成立」

町田 哲（鳴門教育大学教育学部助教授）「近世前期の祖谷山請負商人と大坂」

### 第2セッション「近世大坂の芸能文化」（司会・運営：

井上勝志，八木滋）

久堀裕朗（大阪市立大学大学院文学研究科助教授，COE事業推進協力者）「近世淡路人形座と大坂」

神田由築（お茶の水女子大学文教育学部助教授）「大坂の芸能と都市民衆——浄瑠璃の鼻眞連中について——」

阪口弘之（大阪市立大学名誉教授，神戸女子大学文学部教授）「都市芸能としての浄瑠璃——近松の大坂意識——」

### 第3セッション「都市大阪の自他認識」（司会・運営：

土屋礼子，仁木宏）

脇田 修（大阪歴史博物館館長）「大阪の観方」  
 リ・ナランゴア（オーストラリア国立大学アジア太平洋研究科准教授）「Regionalization and the Commercialization of Ethnicity in the Urban Development of Hohhot」（フホトの都市開発における民族性の商業化と地

域化）

土屋礼子（コメント，大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進協力者）

### 中国プロジェクト「試験制度から見た教育文化と知識人社会」

9：30～17：00

大阪市立大学共通教育棟821教室

杜 成憲（華東師範大学教育学系主任・教授）「科挙試験制度はなぜ1300年続いたか？」

山口久和（大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進担当者）「立身出世の階梯を踏めた人々——“紹興師爺”を中心に」

王 標（COE特別研究員）「清代江南の知識人社会——袁枚を中心に」

平田茂樹（大阪市立大学大学院文学研究科助教授，COE事業推進協力者）「宋代科挙社会史研究の一つの試み——洪邁『夷堅志』の解析を通じて」

高 瑞泉（華東師範大学人文学院院長）「科挙廃止前後の知識人社会」

添田晴雄（大阪市立大学大学院文学研究科助教授，COE事業推進協力者）「言語から見た中国・日本・西欧の試験の比較文化史——筆記試験と口述試験」

### 東南アジアプロジェクト「アートとコミュニティ」

13：00～16：30

大阪市立大学共通教育棟822教室

共催：アートミーツケア学会

中川 眞（大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進担当者）「エイブルアートの可能性」

伊藤裕夫（富山大学芸術文化学部教授）「在日ブラジル人とアート」

チャナロン・ポーニルグロイ（タイ・チュラロンコン大学芸術学部長）「Art for All：Toward a Caring Society」

スプラプト・スジョノ（インドネシア芸術大学学長）「Arts in the Aftermath of Catastrophe：How Arts are reviving the Community」

### アーカイブス・プロジェクト「アーカイブスの新指向」New perspective of Archives

13:00～17:00

大阪市立大学共通教育棟831教室

総合司会 水内俊雄（大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進担当者）

趣旨説明 井上徹（大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進担当者）

森 洋久（大阪市立大学大学院文学研究科

助教授, COE事業推進協力者)「大阪とアジアの都市文化情報システムの試み」  
An Experiment of the Urban Culture Information System of Osaka and Asia

松村寛一郎(関西学院大学総合政策学部助教授)  
「The Concept of Future Facts Book ~持続する地球の実現にむけて~」The Concept of Future Facts Book ~ For Sustainable Earth ~

後藤 真(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, COE特別研究員)「上田貞治郎写真コレクションー都市文化とデジタル・アーカイブー」The photo collection of Teijiro Ueda: Urban culture and digital archives  
鈴木卓治(国立歴史民俗博物館助手)「歴史資料のデジタル化に関する経験——歴史資料のデジタルアーカイブを考えるための手がかかりとしてー」Some experiments of the digitalization of Japanese historical materials

全体討論(司会 井上徹)

アートフェスティバル「チュラロンコン合奏団公演」

2006年9月30日(土) 17:15~18:15  
大阪市立大学田中記念館大会議場

レセプション

2006年9月30日(土) 18:30~20:30  
大阪市立大学田中記念館メタセコイア

国際シンポジウム(全体会)「文化遺産と都市文化政策」Cultural Heritage and Urban Policy

2006年10月1日 10:00~17:00  
大阪市立大学学術情報総合センター大会議室  
司会: 中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者), 水内俊雄(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

柴原永遠男(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「Historical Heritage and Urban Cultural Policy in Osaka」

バナソピット・メクビチャイ(バンコク都副知事)「Cultural Heritage and Urban Policy in Bangkok」

陳 映芳(華東師範大学法政学院教授)「Civic Culture or Folk Culture?—The Emerging Citizen's Culture in Post—“Qunzhong culture” Era」

ウィディア・ナヤティ(ガジャマダ大学文化科

学部講師)「Cultural Heritage and Urban Policy in Yogyakarta」

布野修司(滋賀県立大学環境科学部教授)「Colonial Urban Heritage and Asian Urban Traditions」

吉田伸之(東京大学大学院人文社会系研究科教授)「伝統都市と社会=文化構造」

佐々木雅幸(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授)「Creativity and Urban Cultural Policy」

市民講座「大阪から発信する新しい都市文化——大阪市立大学文学研究科COEの成果を市民に」

2006年10月2日~10月5日 18:30~20:00

大阪市立大学文化交流センター大会議室

1日目 10月2日(月)

趣旨説明: 山野正彦(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

橋爪紳也(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「モダニズムの都市文化と大阪」

土屋礼子(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進協力者)「メディア都市としての大阪」

2日目 10月3日(火)

中川 真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「アジア音楽の楽しみ」

塚田 孝(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「近世大坂の民衆の暮らしと法」

3日目 10月4日(水)

仁木 宏(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進担当者)「ここまでわかった, 中世の大阪」

水内俊雄(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「地図から読み解くモダン都市上海・大阪」

4日目 10月5日(木)

シンポジウム: 講義担当講師と受講者による自由討論

コーディネーター: 山口久和(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

船場建築祭

2006年10月5日, 10月7日

アクセスホール, 綿業会館, 北野家住宅, 芝川

ビル, 伏見ビル  
主催: 船場アートカフェ  
共催: 朝日新聞社, 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター (COE), 大阪市立大学都市研究プラザ

#### シンポジウム「近代建築の創造的活用と大阪再生」

10月7日 (土) 13:00 ~ 18:30  
アクセスホール (大阪市中央区平野町)  
対談「モダンシティー大阪の魅力を語る」: 海野弘 (評論家・作家), 橋爪紳也 (大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

パネルディスカッション:  
進行: 橋爪紳也  
パネラー: 五十嵐太郎 (東北大学工学部助教授), 中島直人 (東京大学大学院工学系研究科助手), 中谷ノボル (建築家・アートアンドクラフト代表), 服部滋樹 (graf代表), 矢部智子 (ライター)

#### 近代建築を使ったアートプログラム

10月5日, 10月7日  
綿業会館, 北野家住宅, 芝川ビル, 伏見ビル

#### 1) タイ音楽公演: 綿業会館 (重要文化財) × チュラロンコン合奏団

10月5日 (木) 18:30 ~  
綿業会館 (大阪市中央区備後町2-5-8本館7F 大会場)  
後援: 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター (COE), タイ王国大阪総領事館  
協力: チュラロンコン大学, タイ音楽研究所, 大オオサカまち基盤

#### 2) 個展: 北野家住宅 (登録文化財) × 山口 晃

10月7日 (土) 10:00 ~ 18:00  
北野家住宅 (大阪市中央区平野町4-2-6)  
協賛: (株)キントー  
協力: 北野家住宅, 山口晃, (株)ミヅマアートギャラリー, 森ビル(株)

#### 3) インスタレーション: 伏見ビル (登録文化財) × 服部滋樹 (graf) + 花村周寛

10月7日 (土) 10:00 ~ 18:00  
伏見ビル (大阪市中央区伏見町2-2-3)  
協力: 伏見ビル

#### 4) サウンドインスタレーション, パフォーマンス: 芝川ビル (登録文化財) × 森洋久 + カミス

10月7日 (土) 10:00 ~ 18:00  
芝川ビル (大阪市中央区伏見町3-3-3)  
パフォーマンス: 11:00 ~, 17:00 ~

出演: カミス (ダンス), 宮崎康子 (S), 平林勳 (Br), 熊本裕美子 (Vc), 浅野美和子 (Fl)  
協力: 千島土地(株), 百又(株), 音景観研究所  
協力者: 小宮正安, 上田假奈代, 桜井共生, かつふじたまこ, 飯島秀司

#### 研究拠点形成費補助金の追加交付について

表題について平成18年 (2006年) 11月6日付で文部科学省より, 1,232,000円の交付内定通知があったので, 交付申請を行った。

#### センター会議の開催

第53回 2006年 9月 7日 (木)  
第54回 2006年10月11日 (水)  
第55回 2006年11月 8日 (水)  
第56回 2006年12月 6日 (水)

#### インターナショナル・スクール「国際都市文化論II」について

谷 富夫

今年度のインターナショナル・スクール (集中講義「国際都市文化論II」) は, 「都市文化学への挑戦」を共通テーマに, 2006年9月26 ~ 28日の3日間, 大阪市立大学共通教育棟821教室で開催された。平均70名程度の出席者であった。

プログラムは, 各日, 午前外国人招聘講師の講義, 午後若手研究者 (本学COE特別研究員・COE研究員・大学院生) の研究発表が行われた。外国人講師は, ドイツ, タイ, アメリカの研究者をお招きした。

昨年に引き続き今回も午前の部の同時通訳は, 神戸女学院大学文学部の現代GP「通訳トレーニング法を活用した英語教育」との共同事業として行った。現代GPを指導しておられる神戸女学院大学文学部の松縄順子教授と長尾ひろみ助教授, およびお二人のご指導のもとで同時通訳に従事して下さった同大学院生・学生の皆さんに心から感謝する。

それから, 午後の若手研究者も英文ドラフトを作成し, 英語で発表したことも昨年と同様である。外国人講師の講義と若手研究者の報告タイトルは以下の通りである。すべての原稿をもとに, 今年度内に欧文報告書を作成する予定である。

1日目 9月26日(火) 9:30~16:00

基調講演: 栄原永遠男(大阪市立大学大学院文学研究科長, COE事業推進担当者)

講義: イボンヌ・シュルツ・ツィンダ(ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所助教授)「西洋思想と中国語——金岳霖(1895-1984)の思考様式とターミノロジー」

研究発表: 徐棣(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, 中国語中国文学)「Sui Sin Farの作品における文化衝突」

筒井香代子(大阪市立大学非常勤講師, 表現文化学)「ハーディの階級意識——Jude the Obscureにおける大学の社会的役割をめぐって」

松永寛明(日本学術振興会特別研究員, 社会学)「明治期日本の刑事司法と観衆」

2日目 9月27日(水) 10:00~17:00

講義: ブッサコーン・サムロントン(チュラロンコン大学芸術学部副学部長)「タイ・Koh Kredの文化資源とツーリズム」

研究発表: 清水由紀(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, 表現文化学)「舞台芸術フェスティバルとツーリズム——ザルツブルク・フェスティバルを事例に」

田渕夏季(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, アジア都市文化学)「チェンマイのサウンドスケープ」

水谷清佳(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, アジア都市文化学)「都市における『マダン』の概念に関する考察——ソウル市を事例として」

山口 晋(日本学術振興会特別研究員, 地理学)「公共空間の地理学——ストリート・アーティスト, 空間的実践, 現代都市空間」

3日目 9月28日(木) 10:00~16:00

講義: リチャード・ケリー(神戸大学国際文化学部特任教授)「人権意識の芽ばえ——歴史学的考察」

研究発表: 木村容子(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, 西洋史学)「15世紀イタリアにおける説教——フランチェスコ会説教師を中心に」

村上ゆり(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, 表現文化学)「都市と郊外の二重生活におけるウルフのアイデンティティ」

内田龍史(大阪市立大学大学院文学研究科大

学院学生, 社会学)「結婚差別と部落民アイデンティティ」

CHALLENGES FOR URBAN CULTURAL STUDIES

26AM, Sept.

- “Keynote Speech”, Prof. Dr. Towao SAKAEHARA (Dean of Graduate School of Literature and Human Sciences, Osaka City University)

- “Chinese Terminology in a Framework of Western Thought: The Case of Jin Yuelin (1895-1984)” Assoc. Prof. Dr. Yvonne Schultz Zinda (Hambrug University, Germany)

26PM, Sept.

- “The Cultural Collisions in Sui Sin Far’s Writings” Jo Rei (PhD Candidate, Chinese literature)

- “Hardy’s Class Consciousness: The Social Role of University in Jude the Obscure”, Kayoko TSUTSUI (Part-time lecturer of Osaka City University, English literature)

- “Criminal Justice and the Audience in the Meiji Period Japan”, Dr. Hiroaki MATSUNAGA (COE Postdoctoral Fellow, Sociology)

27AM, Sept.

- “Cultural Resources and Tourism at Koh Kred”, Assoc. Prof. Dr. Bussakorn Sumrongthong (Chulalongkorn University)

27PM, Sept.

- “The Salzburg Festival: The Function of the Festival in terms of Tourism”, Yuki SIMIZU (COE Fellow and PhD Candidate, Culture as Representation)

- “The Soundscape of Chiang Mai, Thailand”, Natsuki TABUCHI (COE Fellow and PhD Candidate, School of Asian Culture and Urbanism)

- “A Study on the Meaning of Madang in City: A Case of Nori-madang in Seoul, Korea”, Sayaka MIZUTANI (PhD Candidate, School of Asian Culture and Urbanism)

- “Is This Really Heaven?: Cultural Practice of Heaven Artist and Spatial Control of Tokyo Metropolitan Government”, Susumu YAMAGUCHI

(COE Fellow and PhD Candidate,  
Geography)

28AM, Sept.

- “The Burgeoning of an Awareness of Human Rights from a Historical Perspective”, Prof. Dr. Richard J. Kelly (Kobe University)

28PM, Sept.

- “Itinerant Preaching in Late Medieval Italy: The Case of Bernardino da Feltre”, Yoko KIMURA (COE Fellow and PhD Candidate, Western History)
- “Woolf’s Identity in Her City Life and Country Life”, Yuri MURAKAMI (COE Fellow and PhD Candidate, Culture as Representation)
- “Burakumin Identity and Social Relationship: From the Investigation of Young Burakumin in Nara”, Ryushi UCHIDA (COE Fellow and PhD Candidate, Sociology)

## 大阪プロジェクト・重点研究の活動

塚田 孝

第8号に掲載した分（2006年7月まで）以後、2006年12月までに行なってきた活動は、以下の通りである。

### 研究会活動

#### ① 第3回「上方文化講座」〈冥途の飛脚〉

2006年8月30日（水）～9月1日（金）  
大阪市立大学学術情報総合センター大会議室  
講師：竹本津駒大夫（太夫）、鶴澤清介（三味線）、桐竹勘十郎（人形遣い）、阪口弘之（本学名誉教授）他

#### 講義内容

- 8月30日（水）
- ・浄瑠璃史の中の近松
  - ・『冥途の飛脚』解説
  - ・中国演劇における「心中」
  - ・「義理」前史
- 8月31日（木）
- ・『冥途の飛脚』中之巻（封印切の段）講読①
  - ・『冥途の飛脚』中之巻（封印切の段）講読②

・『冥途の飛脚』——語りと人形演出①（竹本津駒大夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎）

・『冥途の飛脚』——語りと人形演出②（聞き手：阪口弘之他）

9月1日（金）

・『冥途の飛脚』とその改作（久堀裕朗）

・近世大坂の町と新町遊廓（塚田孝）

・桐竹勘十郎師に聞く——実演をまじえて（勘十郎）

・文楽の至芸——太夫・三味線・人形一体の舞台再現（津駒大夫、清介、勘十郎）

#### ② シンポジウム「歴史遺産と都市文化創造」Ⅳ「渡辺津と八軒家——上町台地北端部の水辺空間を再現する——」

2006年10月22日（日）13:00～17:00

OMMビル1Fサロン

#### 報告

仁木 宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者）「渡辺津と『寺内之浦』——中世・戦国の大川端界隈——」

松尾信裕（大阪市文化財協会会長原調査事務所長）「発掘調査からみた天満橋・北浜付近の景観」

宮本裕次（大阪城天守閣主任学芸員）「描かれた八軒家、写された八軒家——近世・近代の変遷——」

コーディネーター 北川央（大阪城天守閣研究副主幹）

パネラー 三木啓正（北大江まちづくり実行委員会）、李有師（NPO法人もうひとつの旅クラブ）、河村岳志（NPO法人 水都OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト）

なお、この日午前中には八軒家付近のフィールドワークを行なった。

#### ③ 比較都市文化史研究会（COE特別研究員の報告による研究会）

2006年11月24日（金）13:00～17:00

法学部棟第2会議室

穴沢彰子（COE特別研究員、東洋史）「唐宋変革期における都市社会史・民衆と国家との関係から」

大倉祐二（大阪樟蔭女子大学非常勤講師、社会学）「都市下層の構造変容と日雇労働者の野宿生活者化」

鈴木博子（日本学術振興会特別研究員、国文）「元禄歌舞伎若女方の動向—藩邸上演記録を資料として—」

大村拓生（大阪工業大学非常勤講師、COE

特別研究員、日本史)「日本中世都市論の課題——自己のCOE研究員としての成果をもとに——」

④ 比較都市文化史研究会(近世大坂研究会と共催)

2006年12月16日(土) 13:00～15:30

大阪市立住まい情報センター 3F アプテック  
プレゼンテーションルーム

谷直樹著『町に住まう知恵——上方三都のライフスタイル——』書評会

報告：岩本馨(京都工芸繊維大学助手)……建築史の立場から

八木 滋(大阪歴史博物館学芸員)……歴史学の立場から

書評会終了後 15:30より住まいのミュージアム見学会

なお、この他別項で活動報告される以下の取組みは大阪プロジェクト・重点研究運営委員会でも議論して取り組んだものである。

- ① 国際シンポジウム「東アジア大都市の資本制文化と人間——外国人労働者と民族関係を焦点に——」 2006年9月1日(金)～2日(土)
- ② 国際シンポジウム、第1分科会「都市に対する歴史的アプローチと社会的結合」 2006年9月30日(土)(近世大坂研究会・とらっど3西日本班と共催)

大阪・重点運営会議

以上のような研究活動を実施するために行われた大阪・重点運営会議は以下の通りである。

- |      |                |             |
|------|----------------|-------------|
| 第21回 | 2006年 7月28日(金) | 9:00～10:00  |
| 第22回 | 2006年 9月 8日(金) | 11:00～12:00 |
| 第23回 | 2006年10月 6日(金) | 10:00～11:00 |
| 第24回 | 2006年11月10日(金) | 10:00～11:00 |
| 第25回 | 2006年12月 1日(金) | 10:00～11:00 |
| 第26回 | 2006年12月15日(金) | 10:00～11:00 |

中国プロジェクトの活動

水内 俊雄

やはり、2006年9月末から10月上旬に行われたCOEウィークスがメインとなった。

まず教育科学班では、9月29日(金) 9:30～12:30、COEウィークスの一環として、中国プロジェクト教育班研究会「都市における学校改

革とカリキュラム開発」を開催し、2005年度に上海・大阪を含む中日諸都市で行った学校改革とカリキュラム開発に関するアンケート調査を中心に、中日双方から報告を行い、本研究の総括を行った。杜成憲(華東師範大学教育学系教授)「中国調査結果から」、木原俊行(大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者)「日本調査結果から」、コメンテーター：佐藤真(兵庫教育大学学校教育学部教授)、司会：添田晴雄(大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者)というメンバー構成である。

引き続き、9月30日(土) 9:30～17:00、COEウィークスの一環として、国際シンポジウム(分科会)「試験制度から見た教育文化と知識人社会」を開催した。

同時に、人文班では、9月30日(土) 13:30～16:00、やはりCOEウィークスの一環として、中国学教室との共催で中国プロジェクト人文班研究会「中国の近代化と都市型知識人の役割」を開催した。華東側の責任者である高瑞泉人文学院院长に五年間の研究総括を兼ねて、中国の近現代思想史研究の現状と課題、都市文化研究の動向といった話題について講演していただいた。

法政班については、10月1日(日)のメインの国際シンポ「文化遺産と都市文化政策」において陳映芳(華東師範大学教授)“Civic Culture or Folk Culture? -The Emerging Citizen's Culture in Post 'Qunzhong culture' Era”「市民文化か民衆文化か——ポスト群衆文化時代における市民文化の出現」の講演が行われた。

社会主義国家の文化装置としての「群衆文化」から解き起こし、それが80年代以降の社会変動で、「群衆文化」制度に対して、大衆文化産業の発生、民間文化の復活、市民が自発的に組織した文化活動が発生したことが明らかにされた。そして現在、中国において出現・変遷しつつある市民文化は、社会—国家関係にまでに影響を及ぼしている、と同時に市民が自主的に都市文化活動を組織することは可能なのかという根源的問題の指摘にまでいたる。

国家が「群衆文化」系統を維持し続けようとしているのは明らかである中で、「文化を管理することから「文化を行う」方向に転換し始めている動向の将来はどうなるのか。「娯楽」「レジャー」などの要素も含みこむ、群衆文化の主な内容とし、かつ「コミュニティ(社区)文化」「高

「高齢者文化」が、中国式「市民文化」形成の第一歩であろうと予測している。

また翌日10月2日（月）には、都市研究プラザとの共催で、「上海国際セミナー：変貌する上海の社会・経済と空間——大阪市大の海外拠点の更なる発展をめざして——」をおこなった。

水内俊雄が、「COE上海サブセンターの活動と市大海外拠点の今後」で、サブセンターの活動紹介を行い、陳映芳（華東師範大学法政学院教授、COE上海サブセンター（現代城市社会研究中心）長）「都市更新と市民生活の再構築——上海を中心に」、佐々木信彰（経済学研究所教授）「上海経済今昔雑感」、竹内新一（（株）地域未来研究所代表取締役）「上海の交通網の発展と都市構造の変化」と続き、大阪市立大学の同窓会でもある有恒会上海支部から話題提供もあった。

なお、陳発表の骨子は、下記の通りである。陳映芳「都市更新と市民生活の再構築——上海における居住排除の実態」“How the Invisible Walls is being reconstructed; Housing Exclusion in Shanghai”

- ・ 社会主義時代の階級制のひとつとして、戸口の仕組みがあった（1949-1978年）。
  - ・ それは、中国の「二つの社会構造」を有していることで、都市（人口1億7245万人）、地方（人口7億8014万人）の二つである（いずれも1978年当時の人口）。
- I. 「改革開放（1979年～）」からの都市における社会的な包摂や排除
- ・ 都市化の影響により、農民は都市に移ることを選び、戸口の仕組みは、国レベルで維持された。
  - ・ 都市への移民は「流動人口」「農民労働者」となった。2005年11月には、全国で1億4,735万人。うち上海には500～600万人いると推計されている。
  - ・ 都市の目標は、工業化であり都市開発による近代化である。都市は人的資源、低賃金労働者を求めている。一方で人口圧力、財政的重荷、治安問題などが都市の問題となっている。
  - ・ 都市の取れる選択肢：国内の移民政策を活用し、「知識」と「資源」の観点からの選択的な包摂と農村からの移民労働者に市民権を与えないことによる社会的な排除がある。農民労働者を都市の市民としてはな

く、流動人口とするシステムが構築されている。

- ・ 政策の変更：都市政策や政治的圧力の正統性の危機に対して、「農民労働者の権利保護」が進められている。（居住権、労働権、労働保険、公教育）

## II. 流入層への居住排除

- ・ 住宅政策における農民労働者の社会的排除についてみると、低家賃の公共住宅や賃貸住宅への入居といった居住福祉からの排除、住宅ローンが利用できないこと等の排除を受けている。
- ・ 流入層の居住をみると、53.5%は雇用主が提供する共同宿舎・寮に、46.5%が民間の賃貸住宅などに居住している。

## III. 見えざる壁の再構築

- ・ 2004年10月からの新住宅政策では、賃貸住宅の居住エリアの最低面積基準を定めた。たとえば、民間住宅では7㎡/人、共同宿舎・寮では4㎡/人となっている。また、旧市街地の撤去や都市の再開発が進められた。これにより、小規模住宅エリアや古い公共住宅の一部が壊された。
- ・ 都市と地方の接点、すなわち郊外では、国土開発により、農民のための居住地区が作られたが、流入農民労働者への賃貸がほとんど禁止された。また、不法な建物が除却され、賃貸用の小規模住宅・低家賃住宅は取り壊された。一方で、建制鎮が計画された。行政当局の主たる目的は、居住の統合ではなく、住宅支配の実施である。これは、流入してきた農民労働者の居住できる場が限定的であることを物語っている。
- ・ 結果として、居住者の半分は基準に適合しない質の低い居住を余儀なくされ、また、低家賃の住宅は減少し、支払い可能な住宅は不足した。農民労働者の75%が、収入636～1238元/月であり、古い公共住宅の最低家賃に該当する額である。結果的に、働く場に居住が限定されていくことになる。
- ・ 都市において農民労働者は都市市民として扱われず、その家族は分断される結果となっている。



#### IV. 論点

- ・背景として、農村の貧困があり、都市との格差、すなわち地域差が大きくなっていることが挙げられる。また、農民労働者のシステムとアイデンティティの間で、二つの立場、二つの文化、二つの生活が存在している。
- ・なぜ、このようなシステムを維持することが可能なのかといえば、中国では開発や都市化を勧めるイデオロギーが肯定されていること、国家と都市の関係からのアプローチの存在などが関係している。
- ・つまり国家（中央政府）は、住宅価格の高騰を抑えるよう、都市への包摂を促すような政治的なプレッシャーを地方政府にかけ、地方政府は都市開発を進めるため、農民労働者の都市からの排除を戦略的に行おうとしているという関係にある。また、都市開発を進めることに対する区政府間の競争もある。

#### 東南アジア・プロジェクトの活動

中川 眞

COEウィークスに関連して、シンポジウム、演奏会（チュラロンコン合奏団）を開催したが、その内容については「COEウィークス」報告を参照されたい。

中川 眞（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）が東南アジアプロジェクトの成果を、弘前で行われた国際音響生態学フォーラムにおいて発表した。フォーラムは11月1～4日に行われ、中川の発表タイトルは“Digital sound archive in the case of the soundscape of Yogyakarta”であった。

#### アーカイブス・プロジェクトの活動

井上 徹

アーカイブス・プロジェクトは、大阪、中国、東南アジアの3プロジェクトと連携して、各地域の都市に関する研究成果を相互に関連させな

がら継続的に蓄積し、内外に発信することを課題としてきた。2006年7月以降におけるアーカイブス・プロジェクトの活動について報告したい。

#### 1 事業推進会議

本プロジェクトは、事業計画を実施するために、下記の会議を開催した。

##### 2006年度第4回会議

2006年7月12日（水）12：20～13：00

文学部棟2Fサブセンター会議室

本会議では、本年9月末10月初に予定されているCOEウィークスにおいて、アーカイブス・プロジェクト分科会を設けることを確認した。分科会は2つのセッションから構成することとし、共通テーマ、報告者などについて審議したが、なお未確定の部分があるので、早急に検討することとした。

##### 2006年度第5回会議

2006年8月1日（火）16：30～17：30

文学部棟2Fサブセンター会議室

(1) COEウィークス・アーカイブス分科会のプログラム及び必要経費、当日の準備などについて審議した。

(2) 各データベースの進捗状況について確認した。

##### 2006年度第6回会議

文学部棟2Fサブセンター会議室

2006年11月17日（金）12：00～12：50

(1) データベースの今後の作業日程について

・別途配付資料に基づき、2006年度後半期アーカイブス経費執行予定を審議した。

・各事業で作成しているデータベース（DB）のデータ提出時期を確認した。資料は別途配付。ただし、現在のところ、各DBのデータの提出は来年2月前後にずれ込みそうである。各データが届き次第、「データベース統合検索」システムに組み込むことを確認した。

(2) 従来の刊行物のアップについて

2005年3月以降に刊行されたCOE報告書はホームページ（HP）にアップされていないので、下記の方法によりアップすることとした。

第1に、印刷所にデジタル・データがある場合には、そのデータを引き渡してもらい、PDFに変換する。各プロジェクトにデータの提供を依頼することとした。

第2に、デジタル・データがない場合には、紙媒体の刊行物をスキャニングして、PDFに変換する。今後の作業手順は次の通り。

- 1) 2005年3月以降の刊行物を調査して、一覧表を作成（COE事務局に作業を依頼）。
- 2) HPに掲載されていない刊行物については、事務局に保管されている刊行物を利用する。1冊づつばらして、スキャニングし、PDFにする。

以上の作業は、COE事務局と地域・研究アシスト事務所が協力して実施する。

(3) HPに掲載する各種データの英語版作成について

- ・現在アップされている各DBの英語版は、地域・研究アシストが検討し、可能な範囲で作成する。
- ・従来の刊行物の英語版。重点研究プロジェクトにおいて、刊行物の名称、収録された論文のタイトルを集約しているため、この方式を他プロジェクトにも広げる。集約したデータを地域・研究アシストに渡し、英語版を作成してもらう。経費はアーカイブスの謝金もしくは委託費から拠出する。

## 2 研究活動

(1) 2006年9月30日（土）、COEウィークスの一環として、アーカイブス分科会を実施した。詳細は、本号のCOEウィークスのニュースを参照されたい。

(2) 研究会を開催した。

2006年7月20日（木）14：40～

経済学部棟第2会議室

コーディネーター 後藤 真（COE特別研究員）

報告1 遠藤慶太（皇學館大学助手・大阪市立大学非常勤講師）「歴史の部類・歴史の復原」

報告2 永田拓治（大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生）「歴史叙述としての謡——「音声の世界」と「文字の世界」——」

3「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベースおよびネットワークの構築」（担当者：石田佐恵子〔大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者〕）

(1) エスノグラフィック映像コレクションに、新カテゴリー「カフェ放送てれ2006」「ISI Yogyakarta 2006」を追加し、また、「研

究者の作る映像」とあわせて、2006年度用の映像コレクション作品、37作を公開した（2006年9月15日）。

COE特別研究員・梁仁實は、エスノグラフィック映像コレクションにメディアクト制作者のインタビュー記事を公開した（2006年9月27日）。

(2) 研究会等の開催

- ・2006年10月1日、12月17日、「映像社会学研究会（代表：伊藤公雄〔京都大学大学院文学研究科教授〕）」と共催で研究会を開催した。

- ・国際シンポジウム「ムービング・イメージと社会：映像社会学の可能性」（2006年11月4・5日、京都精華大学交流センター）を開催した。参加者は74名。

シンポジウムの報告書『ムービング・イメージと社会：映像社会学の可能性』を2006年度中に刊行する予定である。

## 上海サブセンターについて

水内 俊雄

今年はCOEの最終年度で上海では以下の各方面で活動が行われた。

陳映芳、高瑞泉、杜成憲の3名が大阪市立大学都市文化研究センター国際シンポジウム「文化遺産と都市文化政策」全体会、分科会に出席した。ニューズレター「都市研究簡訊」のNo.25-28までを発行した。都市調査グループと人文学院が共同で業績集を編纂中である。人文学院担当の「現代性と都市知識分子」をテーマとした第三巻を高瑞泉、劉仲宇、付長珍、劉旭、そして浙江師範大学の朱曉江と日本の教授陣、博士課程の院生と共同で執筆。

都市調査グループは「都市更新と社会空間演変」をテーマとして林拓、達良俊、陳映芳、王子奇および調査グループに所属する院生と日本の教授陣、博士課程の院生と共同で執筆している。陳映芳が中心となった「都市更新と居民生活重建」をテーマとして今年すでに調査を開始している。現在参加メンバーにより研究報告の第一報が執筆されているところである。

## 北京サブセンターについて

井上 徹

北京サブセンターはその拠点を中国社会科学院歴史研究所におき、「前近代の日本と中国における比較的研究」を課題として、日中の歴史的都市の比較研究を、都市に内在する文化的要素に焦点を当てて、地域的性格と歴史的特性の考察を通じて比較検討している。

### (1) データベース

COEのホームページ上にデータベース「中国都城史文献目録」を公開しているが、本年度末までに、更新版をアップする予定である。現在、大阪市立大学大学院文学研究科・東洋史学研究室の協力により、コンテンツを作成中である。

### (2) 報告書

北京社会科学院と共同で報告書を編集している。書名は『中日学者論中国古代都市』、三秦出版社（西安）より2007年3月に刊行される予定である。

### (3) 研究交流

万明先生（北京社会科学院研究員）を招聘し、2006年9月30日、COEウィークスの企画の一環として開催された国際シンポジウム「都市に対する歴史的アプローチと社会的結合」で発表していただいた。

## ジョクジャカルタ・サブセンターについて

中川 眞

ジャワ島中部震災の復興支援募金の呼びかけが大阪市立大学で行われ、100万円に近い額が集まったため、これを届けることとなった。2006年8月29日から山野正彦（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、中川眞（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）がジョクジャカルタに向かい、8月30日に、ガジャマダ大学文化科学部、インドネシア芸術大学に手渡された。両機関とも、主として学生の奨学金に充てることとし、大阪市立大学に対して深謝の意が表された。

また、2007年1月のフォーラムの内容を、「震災からの文化・芸術の復興」とし、実態調査を

始めることになった。これはフォーラムまで続けられ、フォーラムのプログラムの一部にこの報告が組み込まれる予定である。

11月中旬にも中川眞はジョクジャカルタを訪れ、被災地の視察とともに、1月のフォーラムへ向けての会議を行った。フォーラムのテーマは“Recovering Management of Arts and Cultural Heritages from Disaster”とすることが正式に決定された。

## バンコク・サブセンターについて

中川 眞

特に目立った動きはないが、山野正彦（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）が8月31日～9月5日に、バンコク郊外、チェンマイなどにおいて寺院壁画の調査を行った。また、田渕夏季（大阪市立大学大学院研究科大学院学生、前COE研究員）はチェンマイ大学の研究生となり、チェンマイのサウンドスケープ研究を行っている。

12月13日に第5回アカデミック・フォーラムをチュラロンコン大学にて開催したが、その詳細な報告は次号において行う。

The 5th International Academic Forum in Bangkok

“Western impact on indigenous cultures”  
Wed. 13 Dec 2006 9AM. 4PM.

At Saranited Meeting Room Auditorium  
in Chulalongkorn University

Keynote speech: Prof.Dr.Masahiko Yamano  
(Osaka City University)

Speakers

1. Ms. Paphutsorn Wongratanapitak  
“Westernization in Thai Music and Culture”
2. Assoc. Prof. Dr. Soraj Hongladarom  
(Chulalongkorn University) “Westernization, Homogenization, Globalization and Hybridization”
3. Asst. Prof. Dr.Nalinee Tantuvanit  
(Thammasat University) “Indigenous Power/Knowledge: Moving Away from the ‘West’ and Blurring the Fixed Boundaries”
4. Assoc. Prof. Dr. Masahiko Takamura

(Hosei University) “Tokyo, Postwar of Urban Beauty: Architecture Collecting Stalls and Floating Houses”

5. Assoc. Prof. Dr. Tomohiro Takanashi (Osaka City University) “Aesthetics and Japan”

6. Ms. Eri Shibata (Osaka City University) “The dark and brilliant sides of Osaka: Focus on the activities of Kawai dance”

## ハンブルク・サブセンターについて

栄原 永遠男

2006年9月26日～28日に、COEと文学研究科の共催で行なわれた国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」の成果をとりまとめて刊行したい旨、提案があった。それを受け、叢書第5巻を『都市文化理論の構築に向けて』に決定。最終原稿の確定、校正、編集作業に入った。

## ロンドン・サブセンターについて

栄原 永遠男

SOAS349号室の、東京外国語大学COEプログラムとの共同利用を、2007年3月31日をもって終了することとし、その旨を東京外国語大学ならびにSOASに連絡した。

なお、学術交流協定がそのまま存続することは、言うまでもない。

## 文学研究科叢書編集委員会

石田佐恵子

### 2006年度委員

石田佐恵子（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者、社会学、委員長）

井上 徹（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者、歴史学）

塚田 孝（大阪市立大学大学院文学研究科教

授、COE事業推進担当者、歴史学）

高坂史朗（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、アジア都市文化学）

松浦恆雄（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、中国語中国文学）

山崎雅人（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、言語情報学）

### 第1回委員会 2006年9月15日

前年度委員会からの引き継ぎ

新年度委員の確定、委員長選出

叢書第5巻の企画について議論

### 第2回委員会 2006年11月1日

叢書第5巻につき、井上徹委員より、2006年3月18・19日に開催された国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」の成果をとりまとめて刊行したい旨、提案があった。

それを受け、叢書第5巻を『都市文化理論の構築に向けて』に決定。最終原稿の確定、校正、編集作業に入った。

### 2007年3月

文学研究科叢書 第5巻刊行予定。

## 『都市文化研究』編集委員会

仁木 宏

### 1) 2006年度委員

高梨友宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、哲学）

仁木 宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者、歴史学、委員長）

川邊光一（大阪市立大学大学院文学研究科講師、COE事業推進協力者、心理学）

イアン・リチャーズ（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、英語英米文学）

神竹道士（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、ドイツ言語文化学）

多和田裕司（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者、アジア都

市文化学)

平田茂樹 (大阪市立大学大学院文学研究科助  
教授, COE事業推進協力者, 歴史学)

木村好美 (大阪市立大学大学院文学研究科助  
教授, COE事業推進協力者, 社会学)

この他, 編集委員会 (会議) には, 岩澤孝子  
(編集補佐, COE事務局) が出席している。

## 2) 2006年度後半の主な活動 (『都市文化研究』第 8号掲載のニュース以降の活動)

[編集主任]

2006年度

第8号担当=神竹道士・多和田裕司

第9号担当=神竹道士・多和田裕司

[査読体制]

投稿された論文については, 原則として,  
第1次・第2次の2度の査読を課すことにし  
ている。第1次査読では, 1本の論文につき,  
編集委員1名, 非編集委員 (文学研究科教員)  
1名の2名で査読する。第2次査読は, 編集委  
員各1名が担当する。

査読にあたっては, 査読表を活用し, 公正  
かつ正確な査読を期した。査読表はホーム  
ページ上に公開している。

査読を受けた論文を他の論文類と区別する  
ため, 日本語キーワードの後に, 論文受理・  
採録決定の日付を付けている。

[第9号について]

・投稿資格を, 前期博士課程大学院学生にま  
で広げるかどうか, 議論されたが, 結論は  
10号以降に先送りされた。

[第10号以降にむけて]

・都市文化研究センターの大きな体制変更が  
予想され, それにともなって本誌の性格に  
も変化が生じるかもしれない。いくつかの

新しい提案はなされたが, 決定を見るには  
いたらなかった。

## 3) 活動記録 (2006年12月20日現在)

(『都市文化研究』第8号掲載のニュース以降  
の活動)

2006年

8月 9日 『都市文化研究』第8号の集中校正

9月30日 第8号納品

10月11日 『都市文化研究』第9号投稿論文  
の第1次締切 (論文8本の投稿あり)

10月13日 第31回編集委員会

(1) 第8号の反省

(2) 第9号の内容確認

(3) 第9号への投稿論文の第1次査読者の  
決定

(4) 第9号の刊行スケジュールの確認

11月 6日 特別寄稿・在外研究レポートな  
どの締切 (特別寄稿1本の投稿あり)

11月10日 第32回編集委員会

(1) 投稿論文の第1次査読の結果決定→投  
稿者に書き直し指示。

(2) 第10号のスケジュール等, 仮確認。  
編集主任は平田委員か木村委員。

11月27日 投稿論文の第2次締切 (論文8本  
の投稿あり)

12月1日 第33回編集委員会

(1) 投稿論文の第2次査読の結果決定

(2) 集中校正 (1/11) 動員体制の確認

12月4日 印刷業者・表紙デザイナーと編集  
作業打合せ

12月11日 ニュース部門原稿の締切

12月20日 入稿

執筆者アンケートの実施